

岩手県金融経済概況

1. 概況

県内経済は、足踏み状態にある。生産面では、輸送用機械の一部に増産の動きもみられるなど、全体としてはなお高水準を維持しているものの、電気機械がIT関連の在庫調整等を背景として幾分操業度を引き下げていること等から、足もとの動きとしては緩やかながら低下している。また、個人消費は、所得に捗々しい改善がみられない中、大型小売店の売上等を中心にやや弱めの動きとなっているほか、建設関連も、公共投資の減少等が続いていることから低調に推移している。こうした状況下、企業の景況感も、製造業を中心にやや後退している。

2. 最終需要

(1)個人消費

個人消費は、家電や乗用車の販売に持直しの動きもみられるが、大型小売店では暖冬により冬物衣料の売行きが鈍いなど、全体としてみればやや弱めの動きとなっている。

(大型小売店売上高)

百貨店・量販店の売上げは、暖冬の影響から主力の冬物衣料品等の動きが鈍いほか、歳暮商戦も盛上がりに欠けるなど、弱めの動きが続いている。

(家電量販店売上高)

家電量販店の売上げは、パソコンの低迷に加え、暖冬の影響から暖房器具が伸び悩んでいるものの、デジタル家電(薄型テレビ、DVDレコーダー)が新製品投入効果や販売価格低下によって増勢を強めており、全体では持直しの動きが続いている。

(乗用車新車登録台数)

11月の乗用車新車登録台数は、新車投入効果が顕現化したことから、小型車を中心に3か月ぶりに前年を上回った。

(旅行取扱高)

旅行取扱高は、海外旅行が持直しの傾向にはあるものの、国内旅行が弱めで推移しており、全体としては盛り上がり欠ける動きとなっている。

(2) 住宅投資

11月の新設住宅着工戸数は、貸家が引き続き堅調に推移したものの、持家、分譲の減少から全体では前年を下回り、基調的には横這い圏内で推移している。

(3) 公共投資

公共工事請負金額をみると、11月は一部に大型工事の発注がみられたことから、金額では5か月ぶりに前年を上回ったが、基調としては、予算規模の縮小を背景として減少傾向が続いている。

3. 生産動向

生産は、足もと緩やかながら低下している。すなわち、輸送用機械、設備関連等では高水準の生産を継続しており、輸送用機械の一部には増産の動きもある一方で、電気機械では操業度が幾分低下している。また、建設関連では引き続き低水準の生産が続いている。

(電気機械)

半導体・電子部品は、なお高水準の生産を続けているが、IT関連の在庫調整等を背景として操業度が幾分低下している。

(輸送用機械)

完成車の生産は、北米向け高級車の輸出に加え、新型車種の受注も好調であることから、増加している。また、自動車部品でも、海外需要の好調を背景として高操業を続けている。

(設備関連)

工作機械では、自動車部品メーカー向けを中心にフル生産を続けている。

(消費関連業種<紙・パ、精密機械>)

紙・パ(段ボール原紙)は、飲料品向け需要が好調なことから高水準の生産を続けている。精密機械(時計部品)は、輸出市場における海外メーカーとの競合等から単価が低下しているものの、底固く推移している。

(建設関連)

線材が、中国、北米向け輸出の好調から高水準の生産を継続しているが、合板、セメントやコンクリート二次製品など多くの品目では、公共投資の減少等を背景として、生産能力をかなり下回る低水準の生産が続いている。

4. 雇用・所得動向

雇用情勢をみると、10月の有効求人倍率(季節調整後)は0.60倍となり、小幅ながら5か月ぶりに低下した。

一方、所得面をみると、企業は引き続き人件費の抑制に取り組んでおり、全体として捗々しい改善をみていない。

5. 企業倒産

企業倒産をみると、落ち着いた動きとなっている。

6. 金融動向

預金は、個人預金が堅調に推移していることから、全体として底固い動きを続けている。なお、県内金融機関では、ペイオフ全面解禁を控え、決済用預金を導入する動きが相次いでいる。

貸出は、個人向けが住宅ローンを中心に堅調に推移しているが、法人向けが引き続き低迷していることから、全体としては低調に推移している。

以上